

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意ください。

〔成果情報名〕 良食味で収量性に優れる中生晩の水稻新品種候補「山形 142 号」の育成

〔要 約〕 「山形 142 号」は、“中生の晩”の粳種で、玄米千粒重が「はえぬき」より重く、「はえぬき」より 10%以上多収で、玄米の外観品質は「はえぬき」を上回る。炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、「はえぬき」に優る良食味である。

〔部 署〕 山形県農業総合研究センター水田農業研究所・水稻部

〔連 絡 先〕 TEL 0235-64-2100

〔成 果 区 分〕 普

〔キーワード〕 水稻、新品種、山形 142 号、中生晩、多収、良質、良食味

〔背景・ねらい〕

国内の米の消費量が減少する一方で、食の多様化が進み、生産現場では業務用米や輸出用米のニーズが高まっている。特に近年、登熟期の高温による米の品質低下が問題となっており、高温登熟条件下でも品質が低下しにくく良食味で収量性に優れる“中生の晩”品種を育成する。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 「山形 142 号」は、中生の多収・良食味品種の育成を目標に、「山形 112 号, 雪若丸」を母、「山形 122 号」を父として平成 24 年に人工交配を行い、その後代から育成された品種である。
- 2 出穂期は「はえぬき」並、成熟期は「はえぬき」より 1 日早く、育成地では“中生の晩”に属する粳種である（表 1）。
- 3 稈長は「はえぬき」より 5 cm 程度長い“中稈”で、穂長はやや長く、穂数は並。草型は“中間型”で、耐倒伏性は“中”である（表 1）。芒は先端のみに生じ、芒の長さは“短”で、穎色は“黄白”、ふ先色は“白”である。
- 4 いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia, Pii*”と推定され、圃場抵抗性は、葉いもちが“やや強”で、穂いもちは“強”である。障害型耐冷性は“強”、穂発芽性は“中”、高温登熟耐性は“やや強”である（表 1）。
- 5 玄米千粒重は「はえぬき」より 2g 程度重く、収量は、「はえぬき」より 10%以上多く、「出羽きりり」よりやや多い。玄米の外観品質は「はえぬき」を上回る（表 1）。
- 6 玄米粗タンパク質含有率は「はえぬき」よりやや低く、精米アミロース含有率は「はえぬき」よりやや高く、味度値は「はえぬき」を上回る（表 1）。
- 7 食味は炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、「はえぬき」に優る良食味であり、精玄米重が増加しても食味は安定しており、低下しにくい（表 1、図 1、図 2）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 適応地帯は、山形県内平坦部である。
- 2 耐倒伏性が“中”であるため、極端な多肥栽培は避ける。

[具体的なデータ]

表1 「山形142号」の特性一覧

系統名	山形142号	組合せ	山形112号,雪若丸／山形122号
特性	長所: 1. 「はえぬき」に比べて玄米千粒重が重く、多収である 2. 玄米の外観品質は「はえぬき」を上回る 3. 炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、良食味である		短所: 1. 耐倒伏性在中である
調査地	山形県農業総合研究センター 水田農業研究所		
調査年次	平成28年～令和6年（多肥 平成29～令和6年 極多肥 令和元年～6年）		
品 種 名	山形142号	はえぬき	出羽きらり
早 晩 性	中生の晩	中生の晩	中生の晩
草 型	中間型	中間型	中間型
出穂期(月・日)	7.31	7.31	8.1
成熟期(月・日)	9.9	9.10	9.11
稈 長(cm)	75	70	78
穂 長(cm)	19.1	18.1	18.6
穂 数(本/㎡)	520	529	523
倒伏程度(0～4)	0.0	0.0	0.3
いもち真性遺伝子型	<i>Pia,Pii</i>	<i>Pia,Pii</i>	<i>Pia,Pii</i>
葉いもち	やや強	中	やや強
穂いもち	強	やや弱	かなり強
白葉枯病	中	中	やや強
耐倒伏性	中	強	中
耐冷性(障害型)	強	かなり強	強
穂発芽性	中	やや難	中
高温登熟耐性	やや強	中	弱
精玄米重 標肥	66.1(112)	58.8(100)	63.9(109)
(kg/a) 多肥	70.3(111)	63.5(100)	67.9(107)
極多肥	73.3(119)	61.5(100)	68.4(111)
玄米千粒重(g)	24.0	22.1	24.3
玄米品質 標肥	3.6	3.9	4.7
玄米粗タンパク質含有率(d.b.%)	6.8	7.1	7.0
精米アミロース含有率(d.b.%)	19.4	17.7	17.9
味度値	80	77	78
炊飯米白色度	37.9	36.3	36.3
食味総合評価	0.25	基準	-0.11

食味総合評価:「はえぬき」基準で -3～(0:はえぬき)～+3

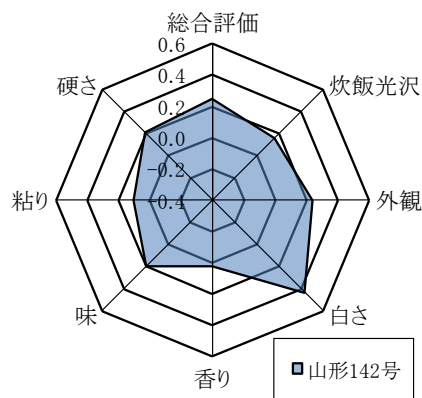


図1 「山形142号」の食味特性

育成地生産力検定試験 平成28～令和6年
基準(0.0) 育成地産「はえぬき」

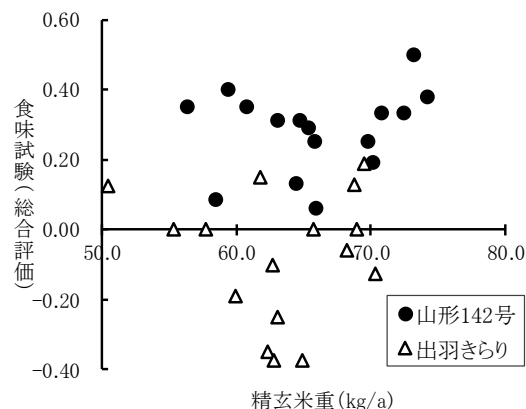


図2 精玄米重と食味の関係

所内試験及び奨励試験 平成28～令和6年
基準(0.0) 育成地産「はえぬき」

[その他]

研究課題名：第Ⅶ期水稻主力品種の育成

予算区分：県単

研究期間：令和6年度（平成24～令和6年度）

研究担当者：石塚和、齋藤信弥、齋藤亮平、後藤大季、尾関滉希、中場勝、佐野智義、本間猛俊、
佐藤智浩、横山克至、中場理恵子、後藤元、齋藤寛、鈴木隆由輝、阿部洋平、
渡部貴美子、高梨光法、安達成美

発表論文等：なし